

FADO

40
Outubro 2003
月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

月田秀子の昨日、今日、明日…

又、秋が巡ってきた。冷夏といわれた今年の夏ではありましたが、やはり、暑さの中では、脳みそはとろけてしまうのか、物事をじっくり見つめ、考えることから遠ざかっていたような気がする。

小学生の頃の夏休みを思い出す。朝、6時に起床、近所の公園でラジオ体操、朝の風はもう少しすがすがしかったように思う。夏休みの日課表には必ず昼寝の時間というのがあって、昼食後1時間、窓を開け放した家の生暖かい畳の上で横にならなければならなかった。母が傍らでうちわを仰ぎながら歌ってくれた。「♪赤いべべ着たかわいい金魚、お目目が覚めたらごちそうするぞ♪」歌いながらいつのまにか、眠ってしまう母。ある夏から、4枚羽根のずっしり重い扇風機が我が家にやってきた。モーターの唸る音、蟬の声。

いまやクーラー抜きでは過ごせない都会での夏。確かに快適だけど、何かをなくしてしまったような気がする。私は、家では電気代節約の為、クーラーは極力かけない。パソコンのキーボードをたたいているだけでも顎からひじから汗が滴り落ちる。が、汗をかき切ったあとの爽快感がたまらない。その時吹いてくる風のなんとありがたいことか。これは貧乏人にしか味わえない特権だ。しかもあせもというおまけが付く。

今更、夏の話はないよ。この会報が着く頃は、秋だもの。昔のことを懐かしむのは年をとった証拠と笑われそう。

「ファドってのは、結局、後ろばかりを振り向く歌だね」。マヌエルでのライブの時に、初めてのお客様に皮肉っぽく言われた。「懐かしさでもあるし、帰り来ぬものへ馳せる身を切られるような熱い思い。それを感じることができるのは、今こうして生きているから。そう思うと、今生きていることが無性にいとしくなりませんか？」私はそう付け加えた。

日本最初のファドの店「マヌエル・カーザ・デ・ファド」での、初めてのライブが、7月26日行われた。

月田は、緊張の極みだった。正直言って、リスボンのファドの店で歌うとき以上に神経質になっていた。近くのアイリッシュパブでギネスをあおるように飲んだのだが、落ち着かなかった。どんな音で響くのか、どんなお客様が見えるのか、そして、反応は？お店は満席60名近くの人たちが埋まっていた。ファド倶楽部の人たちが、3グループ20名ほど応援に駆けつけてくれたのは心強かった。そんな私の心境を察して「ブラボー！」「ファディスタ！」の馴染みのある声が、私を支えるように飛び交った。休憩に入ると、ホールの田村さんがにやりと笑いながら私の大好き物の「バガツ」を出してくれた。イタリアでは「グラッパ」、フランスでは「マール」と呼ばれる、ポルトガル版かすとり焼酎とでもいおうか、結構きついお酒だ。それからは、少しずつ月田はいつもの調子を取

り戻していった。お酒を飲まないと言えないのは、カラオケ族と同じだ。

そういえば、8月の大阪・アートクラブの一回目のライブでは、アルコールを一切飲まずに歌った。やけにテクニク的なことばかりが歌いながら頭をよぎっていった。「次で息継ぎ」「ここは音程をはずさないように」、「次ではあまり力まず抑えて」、「ここは盛り上げて」等々。歌いながら、そんな自分にうんざりしていた。スタジオでCDを録音した直後だったからかもしれない。完成度が要求されるスタジオ録音は、取り直しがきくとはいえ、かなり緊張感を強いられる。ライブ育ちの私は、一発勝負的なところがあって、緻密さには欠ける。多少声が裏返っても、素直に思いがこめられたと思ったらそれで善しとしてしまう。出来上がってから、冷静に聴くと今度はそのことが、後悔の塊となって、私を直撃する。

9月、6枚目のCDを作った。つくる一番のきっかけになったのは、一本の電話だ。受話器の向こうでは私の「汽車は八時に出る」の歌が流れていた。「NHKの『流行歌100年』であなたの歌われた歌を、こうして毎日ビデオをかけては夫婦で聴かせていただいています。CDはまだできないのでしょうか？」という問合せだった。このお二人の為にも、CDをつくろう。そう思った。そうしているうちに、同じような問合せの電話がよくかかってきた。「ありがとうアマリア」の在庫も底をついてきた。「汽車は八時に出る」本当は、作詞された五木寛之さんのプロデュースでCDを作ろうということだったのだが、待ちきれずに、またもや自主制作、通信販売という形で月田は走り始めてしまった。初めて、ファド以外の歌、私の好きな歌を集めてみた。私の足跡としてどうしても遺したい曲ばかりだ。

『月田秀子ファド倶楽部十周年』のパーティが9月7日大阪で開催された。今までは、ほとんど一人で会場探し、交渉、飲食のメニューの手配、DM発送、集金と走り回ってやっていたのだが、今回は、思い切って核になってくれそうな人に相談をしてみた。森本佳明氏を中心に9名の会員の方々が発起人を引き受けてくださった。綿密な打ち合わせを重ねて下さったお蔭で134名の参加者があり、今までにない盛り上がりの中で会は幕を下ろした。発起人の皆様、お手伝いくださった皆様、そして総会に駆けつけてくださった皆様に心から感謝します。人に委ねることも大切だということを学んだような気がしている。このような会をせめて東京でも開きたいものだと思っている。パーティーを終えて、一人一人の手のぬくもりを感じたくて、握手をしながら別れた。本当は、一人一人を抱きしめたい思いで一杯の月田でした。

cartas

●今回のCDはビギナーにとっては入門編ですね！(笑)
さすがにギター旋律が活かされてました。初心者私には、とても聞きやすくて素敵です。私的にはやはり「汽車は八時に出る」が大好きです。最初の刷り込みでしょうかね？(BSの放送で聞いた)

それと、10周年記念パーティの司会者・内間天馬さん、会報に書いてる「エピソード帖」の、イメージ通りのおのろけ？ 司会も素晴らしいものです。そういう意味では、月田さんの人望が篤いせいとか、恵まれてると言えますね！ では……今からまた、CD聞きながら寝ます。おやすみなさい！

(大阪/アルタ)

●12日の「マヌエル・カーザ・デ・ファド」は久しぶりに楽しく過ごすことができました。ワインの美味さも加わって、よい雰囲気でした。いただいた

CDにユパンキの曲が見事にファドに変身していてびっくりやうらしいやら、秀子さんの選曲眼の良さに感服。野上さんの「夕映えのリスポン」もきれいな曲ですね。このところ世の中いささかファドづいてきたようですが、長続きしてくれればと、祈ります。
(東京/I Y夫)

●ファンクラブの会員になっちゃいました!! CDとテープを毎日のように聴いて、その声とファドの持つ情感が一つに溶け合って、私の中へ入ると入り込み、深いしみじみとした息を吐かせます。文字通り共感することでしょう。存在するがゆえの哀しみ、それは震えるほどの喜びと同等かもしれません。そう思いました。秋田に縁ができたと思ってください。きっと当地でのライブを実現させましょう。
(秋田/S.M子)

ensaio

「Saudade de Guitarra (ギターに寄せて)」 CD 誕生秘話 (?!)

BY きうびい

やや大げさなタイトルであるが、このアルバムが生まれるに当たっては、おそらく月田さんは様々なファンのプッシュ・プレッシャー・期待を背負っていたと思う。しかし結果できあがったのは、いままでのアルバムとは一味違った趣のある1枚。すでにご購入のファンも大勢いらっしゃると思いますが、今回は最新アルバムが生まれるまでのこぼれ話を少々お伝えします。

大人気のアルバム「ありがとウアマリア」在庫があとわずかとなったときのこと。「やっぱりCDよ、CD作ってほしい」「『汽車は八時に出る』はいつCDになるの？」周囲の応援の声がちらほら聞こえてきた。私が最初に次のCDはいつリリースされるのかを月田さん本人にたずねたとき返ってきた返事は、「来年の春、ライブ盤で」であった。

もったいない。あまりにももったいなすぎる!! 今年の大阪・東京の年末コンサート、そして増えていく月田ファンや我々会員のためにぜひとも新しいアルバムを作ってほしい、率直にそう思った。しかし、そうはいっても月田さん・ギタリストの野上・上川両氏のスケジュールもあるだろうし、製作の時間の都合等もあるだろうしと考えると、ファンとして都合のいいことばかりコメントできなくなったのもこれまた事実である。やはりこのまま来春まで持ち越しか……? 周囲、やや不安げ。

しかし、7月のある日、「作るのなら大阪でのファド倶楽部10周年総会に間に合わせたい。」と月田さんがほつりともらしたとき、ひそかにガッツポーズをとってしまった。これはやる気だぞ。ほどなくして「録音スタジオをおさえた」という情報が。すばらしい。そして8月初旬、月田さんは一週間録音に大阪へ向かった。

9月の総会まで約1ヶ月。今までとは少し趣向を変えたミニアルバムになるという話に、いったいどんな作品ができあがるのか、とても楽しみだった。しかしびっくり仰天したのは、私への「アルバムジャケットのイラストを描いてほしい」という依頼。しかも、入稿のほぼ1週間前にはそれは伝えられたのである。

月田秀子といえば、長く黒い巻き髪におおきな瞳とおおきな口と眉間のファド皺二本。今まで本人に冗談半分で描いてみせていたものの、正式に依頼されたときは、描きはじめてかなり悩んだ。デフォルメして描けば描くほど本人にはそっくりなのだが、老若男女うっとりのゴージャスな美貌が損なわれてしまったり、やはりまずい。「それなりに強調・それなりに忠実」を頭に叩きこみ、挑戦すること1日。結局なんとなしに描いてみたのが月田さん本人のお気に召したようで、意外とすんなり作品は決まった。いろいろご意見はありだと思いますが、絵では到底描ききれない美しさということで、どうか皆様お許しください。

肝心の音源を聴くことができたのは、その10日後。完璧主義の月田さんは録音を終えて帰ってきた表情より意外にもやや不安気であった。が、耳に入ってきたそのサウンドは、あたたかであらゆる切ない歌声とギターの調べ。今までの濃厚なファドサウンドを好まれる方にはもしかしたら初めは少々物足りないかもしれない。しかし、いまだ月田秀子があたたかめてきたギターに寄せる思い、歌に寄せる思い、そしてギタリストたちの愛情が詰まった、聴けば聴くほどにじわじわと心あたたまる一枚である。待望の「汽八」も収録されている。彼女の歌声を知って聞かない方にも、長い間応援されている方にも、是非耳にさせていただきたい粋なアルバムだ。

最後に、悪戦苦闘していたきうびいをあたたかくもバシバシつっこんでくださった月田さんに、感謝申し上げます。間に合ってよかったねえ。

Obrigada, Hideco!

エピソード帖

ファド歌手失踪、なぞの空白

内間天馬

驚きましたね、その時は。思わず「ウソやろーッ！」って叫んだほどです。最近お気に入りの作家、R.ゴダードの新作「石に刻まれた時間」を読みながら、最愛のウイスキー、グレンモランジー18年をちびちび呑ってたんす。このウイスキー、どれくらい好きかというところ。仮にあなたが僕に質問する、「このウイスキーと最愛の奥さんとどちらを選ぶ？」僕の答えは「ウーン、5分くれる？ 考えるから」。ま、それは兎に角、その至福のひとつきも、もう夜中。ちょうどジュリー・ロンドンのアンニュイな歌が終わったんです。次のCDは、タリダにするか、月田秀子にするかちょっと迷うけど、ここは一応タリダにして、いずれゴダードがリスポンを舞台にした作品を書いた時は、月田秀子のCDをかけながら読んでみようとかページを読み進むうち、なんと、舞台が一転リスポンになっているじゃあ～りませんか！ なんだこりゃ！ 驚いている最中に今度は突然電話のベル、時計を見ると午前2時40分。誰だいまごろ？ いぶかしげに電話に出ると、思わず「ウソやろーッ！」またまた驚いた。な、なんと月田秀子さん本人からなんです。大阪でのライブの打ち上げが終わったのでしょうか、アルコールが入ってかなりご機嫌の様子。「ねえねえ、明日の昼、一緒におそば食べない？」ハ、ハイ、もちろん喜んで！ では大正区のそば切り「凡愚」にて午前11時半に。凡愚の蕎麦は、食べているうちに自然に顔がほころんでくる、僕の最愛の蕎麦なんです。で、翌日。やがて約束の時間。さあ、月田さん、早くおいで！ ところが月田さんは現れない。待てど暮らせど来ない。時間は残酷にどんどん過ぎてゆきます。ああ、ハラへった。時計を見ると午後1時半。店主の真野夫妻もさすがに心配顔で、「月田さん、どないはったんやろ。」などと電話しても出ないし……。いったい月田秀子はどこに消えたのだ？ アルバイトの女子高生フーちゃんも、「先に食べはったら？」確かにハラはぺこぺこだ。しかし、万が一、月田さんの身に何かあったとしたら、コトは重大です。明日の朝刊の見出しが頭をよぎる。《美人ファド歌手、誘拐か？》《ファド歌手、蕎麦を食べずに突然の失踪！》《ファド歌手失踪、原因は更年期障害か？》、いかんいかん、よけいなことを考えすぎる。それにしてもハラが減った。もう我慢できん、月田さん悪いけど先に食べちゃうよ！ と、箸をとった瞬間、やっとな月田さんから電話です。「電話くれた？」ハ、ハイ、あの～、凡愚ですーっと待ってるんですけど、朝から「あら、忘れてたわ。今、月山でお蕎麦を食べたところ。残念！」エッ、ウソやろーッ!!

月田さん、ファド倶楽部発足10周年おめでとうございます。

(いや、馬ちゃん、ごめん。ごめん。それより、10周年のパーティの司会ご苦労様でした。月田)

novidade

『月田秀子コンサート2003』

*チラシ参照

12月10日(水) 東京・新宿「シアターサンモール」
開場：18：30／開演：19：00 チケット(全席指定)：5,000円

問合せ：03-5474-8686

12月19日(金) 大阪・桜橋「サンケイホール」
開場：18：30／開演：19：00 チケット(全席指定)：5,000円

問合せ：06-6345-5062

CD「ギターに寄せて SAUDADE DE GUITARRA」発売

6枚目に当たるCDです。初めて、ファド以外の曲を集めてみました。秋の夜長にぴったりの選曲です。自主制作のため、レコード店には置いていません。ご希望の方は郵便振替にて、お申し込みください。(同封の郵便振替用紙をご利用ください。)

- CD代金：2,000円(消費税込み)
- 送料：200円(ファド倶楽部会員は不要)
- 口座番号：00990-6-18440
- 加入者名：月田秀子ファド倶楽部

<収録曲>：ギターよ教えておくれ・ジャニーギター・ギターよ静かに・生きてりゃいいさ・夕映えのリスボン(INST) 汽車は八時に出る・モーラリアの恋人(INST)・モーラリアは夜・たやすく(全9曲)



fados canções

私のリスボア

訳 カウド ヴェルデ

人目につかない小路で
長い間
身じろぎもせずに佇んでいた
言い知れぬ感情がこみ上げてきて

この街に浸って生きた日々
あなたと一緒にだから
最良の時を過ごせた
リスボアよ
生ある限りあなたを愛そう

魚売りで賑わうあのリスボア
私の眼の中に焼きついている
いとしいリスボア

私の人生をかけて得た
このなつかしい思いに包まれて
私は また
ゆっくり歩き出す

それはまた
夜は自由に解き放たれ
ファドの歌声の流れる
街だった

リスボアの街よ
あなたにはっきり伝えよう
満ち足りた私の人生は
リスボアから始まったと

ああ 私のリスボア
あなたを好きな人は
きっと
その香りに魅せられる
あなたのそばに すぐそばにいるの
で

愛の飾り布で
縁取られたテージョ川の
この口づけ
サウダーデをかいま見せ
夜
街は生きることを学ぶ

人々の魂は
感じ取っている
この人生を
魅力ある街 リスボア
サウダーデのリスボアが
価値あるものになっていると

MINHA LISBOA DE MIM

LETRA : Nuno Gomes dos Santos

MUSICA : Silveira Fonseca

Adormeci
Já faz tempo
Nos braços de um sentimento
Numa viela escondida

Em ti mergulhei os meus dias
Contigo
Vivi o melhor que há-de haver
Lisboa
Vou amar-te até morrer

Era Lisboa Varina
Uma Lisboa menina
Nos meus olhos acendida

Eu aconcheço
Os meus passos
Nas saudades dos abraços
Que eu troquei com a vida

Era então
Uma cidade
Onde à noite a liberdade
Tinha o fado por canção

Por ti cidade
Eu aposto
Que esta vida de que gosto
Teve Lisboa a partida

Ai minha Lisboa
Quem gosta de ti
É certo
Que ama o perfume
Tão perto de ti, tão perto

De um Tejo que borda
Com margens de amor
Este beijo
Que aflora a saudade
Que à noite a cidade
Aprende a viver

Da ama da gente
Que é gente que sente
Este vida
Lisboa-cidade
Lisboa-saudade
Da vida a valer

informação

●月田秀子ファド倶楽部10周年パーティが9月7日(日)大阪の「ラ・ロシエール」で開催され、134名のご参加をいただき、盛況のうちに終わることができました。ありがとうございました。当日ライブ中、焼酎をあおってからはさらに声に艶が出たような気がします。私達の心に響く歌をこれからも歌いつづけてもらうために、我々ファン倶楽部も精一杯応援しようと再確認したひとときでした。今後とも皆様のご協力、ご支援をお願いいたします。
(発起人代表 森本佳明)

●「アマリア・ロドリゲス」の自伝の日本語訳が彩流社から出版されました。(定価2800円)

●「アートクラブ」が10月より、下記に移転します。今までよりずっと環境もアクセスもよくなりました。(御堂筋三つ寺筋南東角の丸いビルです) ご来店お待ちしております。
大阪市中央区心斎橋筋2-6-14 アクロスビル7階 TEL06-6212-2870

<月田秀子のスケジュール>

10月 2日 (木)	横浜・上大岡「和音の会ひまわりコンサート」	問合せ：045-845-6274
	開場：18：30 / 開演：19：00 全席自由席：3000円	
3日 (金)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」	予約・問合せ：03-5276-2432
	<ディナー&トーク&ライブ>ファドを研究されている津田暁子さんのお話を交えてのファドライブです。 料金：8,000円 (フルコースディナー5,000円+ショーチャージ3,000円) ディナー：19：30~21：00 ショータイム：21：00~22：00 <パーティタイム>10：30~ ショーチャージ：2,500円 ショータイム：11：00~	
4日 (土)	横浜みなとみらい・旅行博「パシフィコ横浜・アネックスホール」	問合せ：03-5275-2537
	「マカオとファドの夕べ」 開場：18：30 / 開演：19：00 入場無料*入場整理券が必要です。詳細は電話にてお問い合わせください。	
5日 (日)	横須賀・ヨコスカ・ベイサイド・ポケット	
	「世界民族音楽の旅シリーズIX-スペイン&ポルトガル」 スペイン歌曲の「ドゥオ・セラノ」と併演です。 開場：14：45 / 開演：15：30 チケット：S席：2,500円 A席：2,000円 予約：芸術劇場電話予約センター046-823-9999	
12日 (日)	山梨・甲府「クリスタルミュージアム」(山梨県甲府市貢川1-1-12)	問合せ：055-226-0556
	「第二回アートフェスタ貢川」 開場18：30 / 開演19：00 入場料：3,000円 (NPO法人 街づくり文化フォーラム)	
20日 (月)	山口・下関市民会館「スミセイライフミュージアム-生きる-」	五木寛之・ピーコさんと
	開場：18：00 / 開演18：30 *入場整理券が必要です。参加ご希望の方は、月田秀子ファド倶楽部まで、お電話ください。	
24日 (金)	松本・四柱神社「神道庵」	問合せ・申し込み：0263-34-8969 (宮坂)
	会費：3,500円 (ワイン・オードブル付)	
25日 (土)	長野・諏訪「ハーモ美術館」	問合せ：0266-73-4116 (伊藤)
29日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	問合せ：075-361-3535
	ステージ：①8:00 ②9:00 ③10:00 (入れ替えなし) チャージ3,500円	
30日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	問合せ：06-6212-2870
	ステージ：8:00から3回 (入れ替えなし) チャージ：2,800円	
31日 (金)	大阪・南方「三裕の館」	問合せ：06-6304-1745
	ステージ：①8:00 ②9:00 (入れ替えなし) ワイン・オードブル付5,000円	
11月 8日 (土)	長野・小諸「小諸ユースホステル」	問合せ：0266-73-4116
26日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	問合せ：075-361-3535
27日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	問合せ：06-6212-2870
28日 (金)	大阪・南方「三裕の館」	問合せ：06-6304-1745
12月 4日 (木)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」	予約・問合せ：03-5276-2432
5日 (金)	東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」	予約・問合せ：03-5276-2432
10日 (水)	東京・新宿「シアターサンモール」	問合せ：03-5474-8686
19日 (金)	大阪・桜橋「サンケイホール」	問合せ：06-6345-5062
24日 (水)	京都・四条河原町「巴里野郎」	問合せ：075-361-3535
25日 (木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」	問合せ：06-6212-2870
26日 (金)	大阪・南方「三裕の館」	問合せ：06-6304-1745

<編集後記>

今夏、ヨーロッパは熱波に襲われたと言う。ポルトガルでも山火事が発生して広大な緑が、灰と化した。失う時は瞬間、取り戻すには膨大な時間がかかる。ファド倶楽部の10周年パーティ、発会式の顔ぶれとは随分違う。去る人あり、新しい出会いがあり、再会があり、もう会えない人もいる。会報も40号にたどり着いた。何号まで続けられるだろうか？

考えたって仕方ない。毎号全力投球でいこう！ 読んでくれる人がいる限り。 投稿求む！ (月田)

月田秀子ファド倶楽部ホームページ

<http://www.fado.jp/>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第40号
- 2003年10月1日発行 (季刊：年4回発行)
- 編集・発行 「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒108-0075 東京都港区港南1-8-27 日新ビル1406号
- TEL&FAX 03-3458-9806